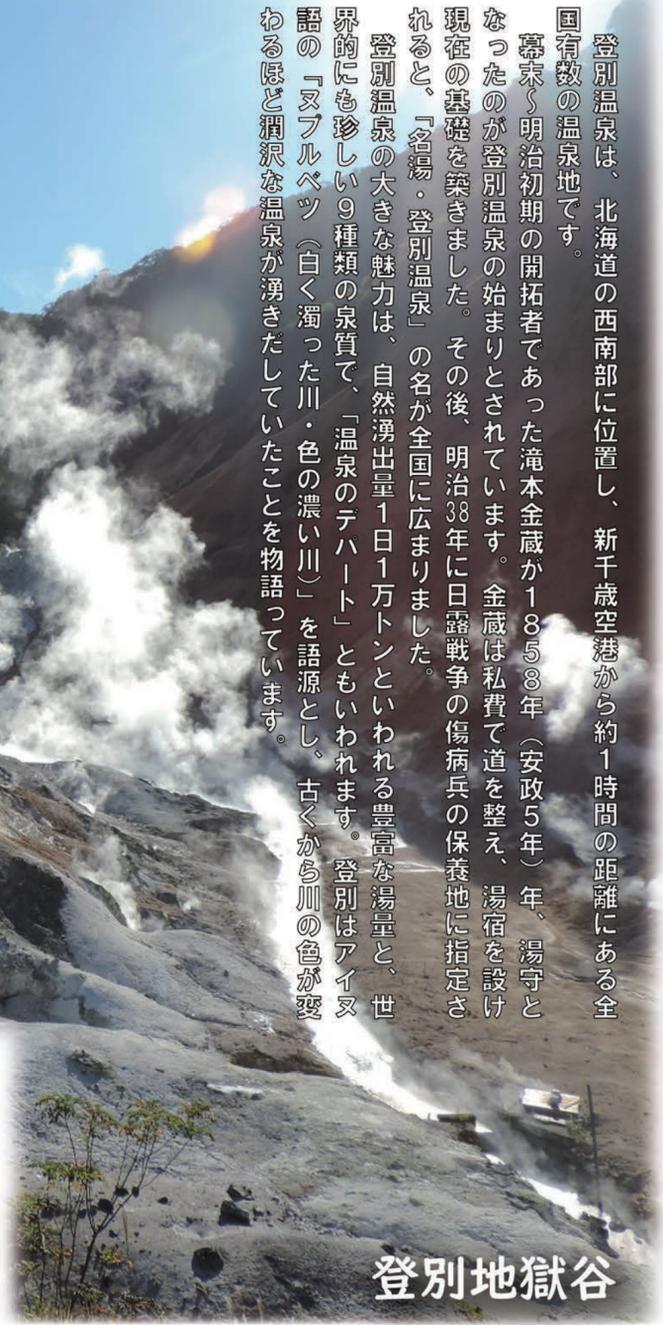


# ようこそ湯の国登別へ

登別温泉は、北海道の西南部に位置し、新千歳空港から約1時間の距離にある全国有数の温泉地です。

幕末、明治初期の開拓者であった滝本金蔵が1858年(安政5年)年、湯守となったのが登別温泉の始まりとされています。金蔵は私費で道を整え、湯宿を設け現在の基礎を築きました。その後、明治38年に日露戦争の傷病兵の保養地に指定されると、「登別湯・登別温泉」の名が全国に広まりました。

登別温泉の大きな魅力は、自然湧出量1日1万トンといわれる豊富な湯量と、世界的にも珍しい9種類の泉質で、「温泉のデパート」ともいわれます。登別はアイヌ語の「ヌブルベツ(白く濁った川・色の濃い川)」を語源とし、古くから川の色が変わるほど潤沢な温泉が湧きだしていたことを物語っています。



登別地獄谷



登別温泉の見どころといえはやはり「登別地獄谷」で、約1万年前のクッタラ火山の活動によりできた爆裂火口跡です。直径約450メートル、広さ11ヘクタールで、谷に沿って数多くの湧出口や噴気孔があり、ここから湧き出た多種類の源泉が各旅館・ホテルへと送られます。少し離れた場所に、同じく爆裂火口跡にできた湯の沼「大湯沼」と「奥の湯」があります。大湯沼は周囲約1キロで表面温度は40〜50度、沼底では約130度の硫黄泉が激しく噴出しています。奥の湯は直径約30メートルの円形状の沼で、表面温度は75〜85度とかなり高温です。これら二つの沼も登別温泉の源泉として利用されています。



大湯沼川天然足湯



大湯沼



奥の湯

## 魅力あふれるテーマパーク

登別市には三つのテーマパークがあります。中でも「のぼりベツクマ牧場」は1958年の開業で、テーマパークの草分け的存在です。現在はヒグマ60頭余りが飼育されており、体型に似合わぬかわいい仕草は観光客の人気の的になっています。



のぼりベツクマ牧場

展望台からは透明度全国2位を誇る湖「クッタラ湖」や太平洋を一望できる素晴らしい眺望を堪能できます。

「登別マリパークニクス」は海洋ファンタジーをテーマにした水族館で、デンマークの古城「アイエスコ」をモデルにした外観は多くの人の目を引きつけます。イルカやアシカのショーのほか、イワシのパフォーマンスが楽しめる銀河水槽や毎日実施されているペンギンパレードが人気を集めています。



登別マリパークニクス



登別伊達時代村

片倉小十郎の末裔が入植したことで開村されました。道に軒を連ねる商家や勇壮な武家屋敷、からくり満載の忍者屋敷のほか、迫力満点の忍者ショーや華麗な花魁ショーなど、エンターテインメントの空間が広がっています。

このほかにもサンライバスキー場や、さまざまな体験プログラムを楽しむネイチャーセンター、貴重種が生息するキウシト温泉等、新たな地域資源が登別の魅力を高めています。

## まつりで感じる登別

地域最大の祭りである「登別地獄まつり」は、毎年8月の最終土・日曜日に開催され、年に一度地獄の釜のふたが開き、閻魔大王が赤鬼・青鬼を従えて温泉街へ現れるというストーリーです。重さ1トンの「鬼みこし」や「閻魔大王のからくり山車」を中心とした「エンマ大行列」・「鬼踊り大群舞」など、観光客や市民たちが鬼と一緒に楽しむ迫力満点の祭りです。



地獄の谷の鬼花火

人気イベント「地獄の谷の鬼花火」は、毎年6、7月の毎週木、金曜日の午後8時30分から地獄谷展望台で開催されています。登別温泉の湯の護り神「湯鬼神」たちが、お客さまの災いを集め太鼓や銅鑼の音とともに手筒花火を夜空に打ち上げ厄を払う勇壮な姿は圧巻です。地獄の谷の鬼花火は、毎年6、7月の毎週木、金曜日の午後8時30分から地獄谷展望台で開催されています。登別温泉の湯の護り神「湯鬼神」たちが、お客さまの災いを集め太鼓や銅鑼の音とともに手筒花火を夜空に打ち上げ厄を払う勇壮な姿は圧巻です。地獄の谷の鬼花火は、毎年6、7月の毎週木、金曜日の午後8時30分から地獄谷展望台で開催されています。登別温泉の湯の護り神「湯鬼神」たちが、お客さまの災いを集め太鼓や銅鑼の音とともに手筒花火を夜空に打ち上げ厄を払う勇壮な姿は圧巻です。

最後は「登別温泉湯まつり」です。湯まつりは皆さまの子孫繁栄と無病息災を願い、併せて登別温泉の湯に感謝する祭りで、毎年2月3、4日の両日開催されます。湯鬼神を伴った株の祭り関係者が「福はうち! 福はうち」と叫びながら各旅館・ホテル、商店街等を訪れ、お客さまに「落花生と元鬼玉、縁起札」を撒いて回ります。祭りの最後は零下10度という厳寒の中で下帯姿の男衆約100人が紅白2チームに分かれ、湯かけ合戦と騎馬戦を行う奇祭です。紅が勝てば湯度が増えるといわれ、湯量が増えるといわれており、過去を振り返ってもほぼその通りの結果になっています。



登別地獄まつり

鬼花火は、国が主催する第24回「ふるさと大賞」で栄えある内閣総理大臣賞を受賞しました。この受賞は、閻魔大王はもちろんだこと、ボランティアで運営に携わ



登別温泉湯まつり

「登別温泉湯まつり」は、毎年2月3、4日の両日開催されます。湯鬼神を伴った株の祭り関係者が「福はうち! 福はうち」と叫びながら各旅館・ホテル、商店街等を訪れ、お客さまに「落花生と元鬼玉、縁起札」を撒いて回ります。祭りの最後は零下10度という厳寒の中で下帯姿の男衆約100人が紅白2チームに分かれ、湯かけ合戦と騎馬戦を行う奇祭です。紅が勝てば湯度が増えるといわれ、湯量が増えるといわれており、過去を振り返ってもほぼその通りの結果になっています。

## イランカラテ アイヌに触れる「ウポポイ」

登別市では、隣接する老老町と連携した観光PRを進めてきました。その老老町に2020年7月、民族共生象徴空間(愛称「ウポポイ」)が開業しました。ウポポイは先住民アイヌを主題とした「国立アイヌ民族博物館」と、古式舞踊の公演や多様な体験プログラムを通してアイヌ文化を

体験できる国立民族共生公園、アイヌ民族の慰霊施設で構成されています。施設は、新千歳空港から高速道路を経由して40分ほどのポロト湖畔にありますので、自然を神(カムイ)と崇めながら、その自然と共生してきたアイヌの歴史や文化に触れていただきたいと思います。



全景(イメージ)



ポロト湖とコタン



舞踊の様子

画像提供: 公益財団法人 アイヌ民族文化財団

(一社)登別国際観光コンベンション協会  
 ☎0143-84-3311 FAX: 0143-84-3303  
 URL: <http://naboribetsu-spa.jp/>  
 登別国際観光コンベンション協会 検索